

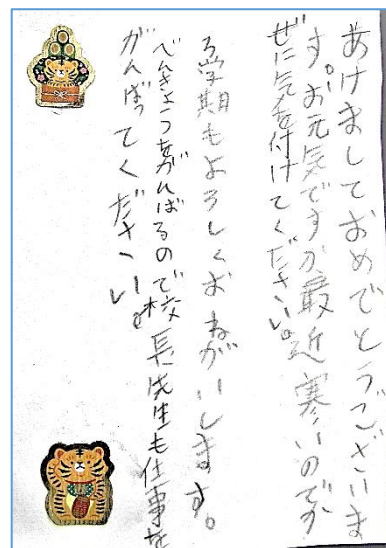


年が明け、3週間がたちました。新聞やテレビ等では、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）の急激な感染拡大が報道されていますが、しらかし台小学校の子どもたちは、日々の感染防止対策をしっかりと行い、毎日元気に学校生活を送っています。

うれしかったこと①

1月4日（火）のこと。学校の仕事始めの日に、児童クラブの職員の方と女の子2人が来校しました。そして立派な新年の挨拶と^{あいさつ}一緒に、先生方へ手作りの年賀状をいただきました。

その中には、校長宛^あての年賀状も7通ありました。学級担任ではない職員室の職員にも年賀状をいただき、新年早々とてもうれしい気持ちになりました。



うれしかったこと②

1月17日（月）、この日は「あいさつ運動」の日でした。3学期初めてのあいさつ運動、休日明けのあいさつ運動でしたので、「挨拶の声はどうか？」と心配していましたが、みんな元気な挨拶で登校してきました。

特に立派だったのは2人の男の子です。名前を聞くのを忘れてしまいましたが、黄色の帽子の男の子^{ぼうし}と、迷彩柄の帽子の男の子^{めいさいがら}でした。2人とも私の前で立ち止まり、帽子を取って挨拶してくれました。

「しらかし台小学校の子どもたちの挨拶は立派ですね。」とよく褒めていただきますが、この2人の挨拶は、「立派」を超えて「スーパー・グレート・立派」な挨拶でした。



うれしかったこと③

1月18日（火）のこと。この日は雪が降り、学校にもうっすらと雪が積もっていました。早めに出勤した職員で校門から昇降口までの雪かきをしていると、登校してきた男の子が、「朝早くからご苦労様です。ありがとうございます。」と言って階段を下っていきました。

私は、驚いたと同時に、「こういう言葉遣いは、どこで覚えたのだろう？」と思いました。きっと、ある雪の日、お家の人や地域の方がこのような会話をしていたのではないのでしょうか。「子は親の鏡」と言いますが、地域の大人みんなで子どもたちの手本になれるといいですね。